学校法人藍野大学 広報誌

2019
11

ainote
アイノテ

専門職大学 開学について
研究紹介
AINO NEWS
産学連携・地域貢献活動 etc
MY SCHOOL DAYS
～私が18歳だった頃～
藍野大学 OG 紹介
and more…

2020年4月開学 びわこリハビリテーション専門職大学

藍野高等学校

2020年度新設!
メディカルサイエンスコース

藍野高等学校に行ってみよう!

先生に聞こう! 長岡義久先生

Saluti et Solatio Aegrorum

びわこリハビリテーション専門職大学

滋賀県初リハビリ系4年制大学 びわこ リハビリテーション専門職大学

2020年4月からの開学が正式に決定

2019年9月6日付で文部科学大臣より設置認可

国内における近年の人口動態の変化から、医療・健康・福祉を取り巻く環境も様変わりしつつあり、理学療法・作業療法の職域は、医療施設から在宅へ、また教育機関や職場を含む地域へと展開していくことが求められています。このような地域包括ケアシステムの現場では、理学療法士・作業療法士に求められるスキルも高度化・多様化しています。

滋賀県においても、ヘルスプロモーションを含む地域包括ケアシステムを基盤とした、小児・成人・老人・障がい者・患者・健常者が共生する地域づくりは、重要な県政の一つと位置づけられています。リハビリテーション専門職は、滋賀県において2025年には約3,000人が必要とされている中、現状は1,200人一つまり1,800人が不足すると推計されています。これら国や地域からの社会的要請を受けて、本学は2020年4月「びわこリハビリテーション専門職大学」を開学します。リハビリテーションの高度な実践力、課題発見・解決能力、多職種・患者・地域住民とコミュニケーションを図る能力、社会のニーズを敏感に感じ取り、自ら職務内容を展開できる応用力や刷新力を養成します。

学部・学科紹介

リハビリテーション学部

理学療法学科

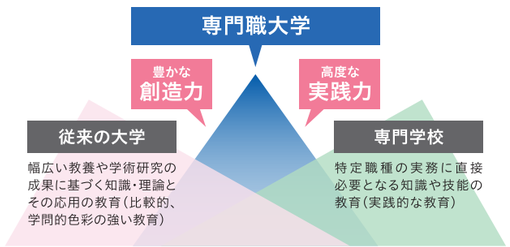
- 修業年限 4年
- 定員 80名
- 学位 理学療法学士（専門職）
- 取得できる資格
  理学療法士国家試験受験資格

作業療法学科

- 修業年限 4年
- 定員 40名
- 学位 作業療法学士（専門職）
- 取得できる資格
  作業療法士国家試験受験資格

専門職大学とは

2019年4月、55年ぶりに大学制度が改革され「専門職大学」が誕生しました。この新たな教育機関は、学術研究に基づいた知識や理論を学修する大学と、実務的なスキルや知識を身につける従来の専門学校、その両者の特徴を併せ持つ、より実践的な学びの場。ますます高度化する専門分野を新たな発想でリードし、新しいサービスを作り出せる人材を養成することを目的とし、大学卒の学位も取得することができます。



自ら職域を拡大し、地域に貢献できるプロフェッショナルを

この度開学する「びわこリハビリテーション専門職大学」の前身は、平成8年に開校した「滋賀医療技術専門学校」です。20余年という歴史の中で、これまでの卒業生は1,030名にのぼり、滋賀県をはじめ全国で活躍するリハビリテーションのスペシャリストを多数輩出してきました。しかしその間、産業構造は急速な変化を迎え、医療分野においてもより積極的な社会貢献への期待が寄せられるようになりました。そのような社会的要請から、発展的に立ち上げたのが本学です。

私たちが目指すのは、研究と臨床を組み合わせた「リアル」な学びです。授業の3分の1は実習や実技とし、約1,000時間におよぶ現場での実習で、より高度な実践力を身につけるカリキュラムを準備。また、日進月歩の医療・リハビリ分野においては常に学びが必要となるため、集積する最先端の研究内容や情報を卒業生にも開放します。

リハビリ職は患者さんから感謝されるやりがいのある仕事ですが、それと同時に、健康と命を預かる責任のある仕事でもあります。まずは在学中に、自身がどうなりたいかという将来像を描いてください。そして卒業後は幅広い総合力と専門的な実務力で、地域に貢献できるプロフェッショナルであり続けて欲しいと願っています。

びわこリハビリテーション専門職大学　学長予定者
山川 正信

リハビリテーション学部
作業療法学科 就任予定
大西 満 准教授

作業療法では、人が営む日常の生活行為に重点をおいたリハビリテーションを行います。そのため、これからの作業療法士には、老若男女、障がいの有無を問わず多くの人が地域で健康に過ごす為の支援が求められます。そのため、「児童期」「成人期」「老年期」の履修モデルを用意し、各年代の課題にアプローチする力を養います。「児童期」では、児童の発達や能力に合わせた働きかけを修得。「成人期」では、施設や在宅での生活、就労などを支援する方法を探り、「老年期」では、地域と連携した支援について学びます。目指すのは、即戦力として地域に貢献できる人材。その実現に向けて、実際に地域に入って支援を行う実習や長期間のインターンシップなども準備しています。

リハビリテーション学部
理学療法学科 就任予定
治郎丸 卓三 准教授

本学の理学療法学科では、地域包括ケアシステムの導入が進められる現在において必要とされている技能と、先進的な知識を養うため、三つの履修モデルを用意しています。

子どもから高齢者まで各ライフスタイルに応じた健康づくりや、心の健康管理など生きがいの創造に取り組む「ヘルスプロモーション」、健康寿命を延ばすために、健康と体力の維持に必要なトレーニング・指導方法などを学ぶ「生涯スポーツ」。「生活工学」では、医療と介護の垣根を越えて、理学療法技術を活用した地域の問題解決を探ります。選択した分野で実践を積み、地域で頼りにされるプロを養成します。そして同時に、関わる人と心を通わせ合える人間力も磨いてほしいと思います。

藍野高等学校 衛生看護科

2020年度新設! メディカルサイエンスコース

医療系の4年制大学進学が目標 ―大学での学びに活きる知識と素養を身に付ける

本校の衛生看護科に2020年4月より「メディカルサイエンスコース」を開設します。メディカルサイエンスコースでは、主に医療系の4年制大学を目指すカリキュラムを設けています。また、医療専門職に就くためのキャリアアップに直結した教育プログラムを展開する計画で、藍野大学、藍野大学短期大学部の教員と連携・協力しながらプログラムについて協議を進めています。外部試験の活用を含め、受験指導にも力を入れます。これまでの准看護師養成のノウハウを活かし、様々なプログラムを通して、自ら考え、答えを出すための論理的思考力を培い、医療チームにおいて中心的な役割を担える人材を養成します。

未来へのステップ

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	
メディカルサイエンスコース	中学校 卒業	藍野高等学校 衛生看護科 メディカルサイエンスコース[3年制] ● 藍野大学・藍野大学短期大学部との連携により、看護師はもちろん、リハビリテーションなど様々な医療技術にいち早く触れ、自分にマッチした医療職への道を選ぶことができます。		藍野大学[4年制]※				看護師ほか医療職
				藍野大学短期大学部(第二看護学科)[3年制]※ 看護師				
				医療系大学[4年]				
				医療系短大・専門学校[3年] 看護師ほか医療職				

※内部推薦制度検討中

- 内部推薦制度検討中
- 藍野高等学校より藍野大学・藍野大学短期大学部に入学した場合、入学金免除制度が適用されます。
- 他大学の受験にも対応できる学力を身に付けられます。

藍野高等学校に行ってみよう! 進学相談会、入試対策講座を開催

9月に開催された秋のオープンスクールでは、看護体験授業を実施しました。在校生や卒業生がサポートする中、来場されたみなさんに様々な看護を体験していただきました。また授業、実習、学校生活、卒業後の進路など、どんなことでも気軽に質問していただける機会にもなりました。
藍野高等学校では、11月、12月にも進学をご検討される方向けにイベントを開催いたします。
ご興味がある方はぜひ参加下さい。

骨折時の応急措置

赤ちゃんの沐浴体験

プロの血圧測定をマスターしよう

先輩から学ぶ! いざという時の包帯の巻き方

今後の開催予定

11/23(土・祝)看護実習・進学等説明会
12/14(土)　入試対策講座

ご予約はこちらから▶

藍野高等学校

先生に聞こう!

衛生看護科　長岡 義久 先生

先生と看護職の出会い、藍野高等学校について聞きました

心が震えた出会いから看護師の道へ 臨床を通じて得た経験を次世代の教育に活かす

16歳の頃、バイクに乗って大阪のとある山道を走っていた時に偶然たどり着いた重度障害者施設。ここで重たい障がいを抱えた子どもたちと先生とのふれあいを見て、私は心が震えました。人の役に立つ仕事がしたいと強く思い、後日、その施設まで「ここで働かせて下さい」と伝えに訪ねました。その時、職員の方に色々なお話を聞いて、将来の目標を看護師と定めました。看護師となり、臨床での自分の経験を後輩に伝えていく中で、教育指導の面白さに惹かれ、教壇に立つことになりました。
普通の高校生が厳しい世界に入ってきて、勉強だけでは済まない環境に身を置き、もがきながら医療に従事するために資格を取得する、その成長過程を見られることに大きなやりがいや喜びを感じます。授業ではまず生徒達が身近に感じる人体の不思議や、ひとつの病気をとりあげ、誰かに説明できるようになるくらい解説し、知識欲を高められるよう教えています。1つの疾患をしっかり学ぶことは、他の疾患の勉強に活かせます。また、藍野高等学校は共学です。男子生徒は人数が少ない分、学年を越えて絆が深いです。彼らがまだ決して多いとは言えない男性看護師の道を切り開いてくれていることも、心強く感じています。

我慢せず、感情は素直に出して良い 大事なのはその感情をコントロールすること

藍野高等学校は定員が1学年100名(全体で300名)というアットホームな環境なので、先生と生徒の距離がとても近く、メンタル面でのアドバイスをする先生も非常に多いです。衛生看護科に入ってくる生徒で、不安を抱えていない生徒はいません。看護師になりたいという目的をもっていても「自分にできるんだろうか」という不安や、実習に行く中で戸惑いが出てきたりもします。個々によって内容は違ってきますが、私たち教員も同じことを乗り越えてきたんだと伝えています。これから様々な人々の看護をする訳ですから、不安になったり、おろおろしたり、それが本来の形だと思うんです。むしろ、正直な感情を素直に出してもらい、教員は感情のコントロールの仕方を高校3年間の間に教えていきます。高校での学びを活かし、生徒には将来、患者さんがいちばん望んでいることを叶えてあげられる医療従事者になって欲しいと願っています。

Teacher's Profile

Nagaoka Yoshihisa
藍野高等学校 長岡 義久 先生

看護師として救急、ICU、精神科などの臨床で23年の経験を積んだ後、教員免許を取得して教育現場へ。藍野高等学校での勤続9年目となる現在は1年生の担任を受け持っている。担当教科は「疾病の成り立ち」「成人看護」「精神看護」。看護教員の副主任、教員への教育指導も担当している。趣味はオフロードバイクでのツーリング。

研究紹介 先生に聞こう！

臨床の視点から得た気づきを研究・教育へ
糖尿病治療における運動習慣の重要性

藍野大学医療保健学部 理学療法学科 講師
本田 寛人 先生 Honda Hiroto

日本糖尿病理学療法学会 運営幹事/認定理学療法士（代謝，健康増進・参加）※/日本糖尿病療養指導士/介護予防推進リーダー/糖尿病カンパセーション・マップTM ファシリテーター/健康気象アドバイザー
神戸大学卒業。同大学院で修士号（保健学），京都大学大学院で博士号（人間・環境学）を取得。2010年より公立豊岡病院組合立豊岡病院日高医療センター・リハビリテーション技術科に勤務。糖尿病、肥満など生活習慣病を研究テーマとして取り組む。2017年より藍野大学医療保健学部理学療法学科に。
※高い専門性を有する理学療法士。日本理学療法士協会が認定。

高校生の時に野球で怪我をした友人が治療のためリハビリに通うことになり、理学療法士という仕事を知ったという本田先生。大学で保健学を学んでいた時に、小児糖尿病サマーキャンプにボランティアとして参加したことがキッカケとなり、糖尿病と向き合う子どもたちの姿を見て糖尿病という病気そのものに興味を持つ。理学療法士として公立病院に勤めながら京都大学で博士号を取得し、糖尿病や肥満といった生活習慣病を研究テーマに、研究者としての道も歩み始める。
そんな本田先生が今年5月に開催された「第62回日本糖尿病学会年次学術集会」において発表した研究内容が、「日本糖尿病学会医療スタッフ優秀演題賞」を受賞。審査員の医師や専門家から高い関心を寄せられた。
本田先生が発表した研究内容は、「運動習慣をもつ2型糖尿病患者における動脈硬化指標の季節変動の検討」。糖尿病の患者は、血管が硬くなる動脈硬化が進みやすく、それによって生じる心筋梗塞や脳卒中といったさまざまな合併症にかかるリスクが非常に高い。それを防ぐために、医師や理学療法士の治療方針のもと、食生活や運動習慣などの指導を受けながら生活している。臨床現場において患者の身体の調子、病態が季節によって違うということを実感していた本田先生は、運動習慣がある糖尿病患者とそうでない患者の血液データを検証し、運動の有無と季節変動に相関関係があるかどうかを、さまざまな指標で検証してきた。今回の研究では、「運動していることで体重や血糖値などの代謝関連指標の季節変動（冬季の悪化）が抑制される」、そして、「動脈硬化を反映する指標については運動しているしていないに関係なく、季節による影響がある」という結果であった。運動習慣の維持が季節による病態変化の抑制に効果があることは、運動習慣の重要性を改めて認識するものである。一方で、季節に影響を受ける指標もあるため、一時の検査結果に一喜一憂せず、その特徴を見極めて病気と向き合っていくことが大切である、というメッセージとなった。
現在も、週に1回は「訪問リハビリテーション」として臨床に出ている本田先生。現場で感じることは、テレビやインターネットから得た情報を元に動いたり、問いかけてくる患者が非常に多いこと。患者の考えや問いかけを理解することで、本田先生自身が学ぶこと、自身の研究に結びつくことも多いという。「患者がリアルタイムで何を見て、何を感じて生活しているのかを実際に肌で感じる臨床の視点は、教員として教育や研究に携わる中で、今後も大事にしていきたい。学生の皆さんも、何のため、誰のための研究なのか、その意義を考えて卒業研究等に取り組んでいただきたい。」と本田先生は話す。

◀ 2019年5月23日～25日に仙台で開催された「第62回日本糖尿病学会年次学術集会」

本田先生が発表された演題が「第3回日本糖尿病学会医療スタッフ優秀演題賞」を受賞。記念トロフィーが授与された。 ▶

小児糖尿病サマーキャンプ

1型糖尿病患者の小・中学生が対象のサマーキャンプ。学生時代は運営ボランティアとして、以降は医療スタッフとして毎年参加。今年で14年目。子どもたちの成長を見られることにやりがいが。

研究紹介 先生に聞こう！

注目される「再生医療」
未来につながる新しい治療法の研究

中央研究施設

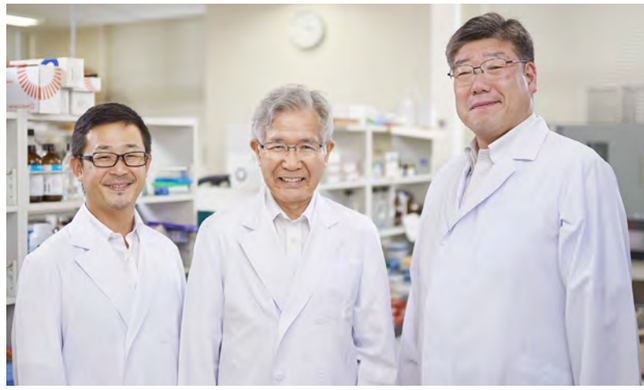
研究施設の概要

2007年に藍野大学再生医療研究所として開設。大学全体の研究活動を推進・発展させる役割を担う研究施設として、2016年4月に藍野大学中央研究施設に名称を変更し、主に「脊髄損傷の治療につながる再生医療の基礎研究」1)-3) を進めています。

研究実績

藍野大学では、自家移植可能な体性幹細胞に注目し、その細胞を移植する治療方法を研究してきました。その一部の治療方法は北野病院などで臨床応用されており、実際に患者さんに投与して一定の効果が得られています。

1) Nakano N. et al. PLoS One 2013　2) Ide C. et al. Neural Regen Res 2016
3) Kanekiyo K. et al. J Neurotrauma 2017



藍野大学中央研究施設
藍野大学医療保健学部 臨床工学科
兼清 健志 講師
Kanekiyo Kenji

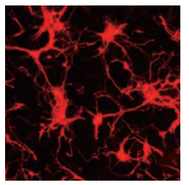
藍野大学中央研究施設長
藍野大学医療保健学部 臨床工学科 学科長
井出 千束 教授
Ide Chizuka

藍野大学中央研究施設
藍野大学医療保健学部 臨床工学科
中野 法彦 准教授
Nakano Norihiko

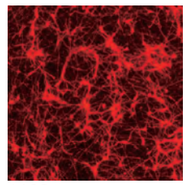
脊髄損傷治療の最前線
神経再生の希望となる新たな発見

研究のはじまりから現在

脊髄は脳と手足をつなぐ重要な神経回路で、怪我などで損傷すると手足に運動感覚完全麻痺や不全麻痺を引き起こします。その脊髄神経そのものに治療を行い、新しい神経回路を作ることで麻痺を治すのが再生医療です。中央研究施設の施設長である井出千束教授は、京都大学大学院教授時代から、患者自身が持っている細胞を損傷した脊髄に移植したり、細胞が出す有効成分を脊髄に打って治療効果を見るという、「元々自分が持つ細胞」を使った脊髄損傷治療（再生医療）の研究に取り組んできました。自分の細胞の移植は患者にとって安全で、癌化する危険性も免疫拒絶もありません。外部病院と協力して臨床試験も行われています。この再生医療の研究成果が元となり、3年前から近畿大学、神戸医療イノベーション推進センターとの新しい共同研究が始まりました。神経を再生するには神経を「伸ばす」必要があり、そのためには神経が伸びてくるための「足場」が必要になります。足場となりうる特殊なコラーゲンを近畿大学が開発し、藍野大学の研究によりこのコラーゲンを損傷脊髄に移植すると再生神経がよく伸びることがわかりました。現在は国際特許を申請し、国際公開されました。細胞ではなくコラーゲンが神経の再生に有効というのは新しい発見であり、今後この材料をヒトの治療につなげていけるよう、藍野大学ではさらに詳細な基礎研究を進めています。



PLL



LASCol

◀ 一般的な神経細胞培養の足場（PLL）と今回特許申請したコラーゲンの足場（LASCol）の上で同じ数の神経細胞を培養して72時間後の神経突起（赤）。

再生医療とリハビリテーション

私たちの本来のテーマとしては、脊髄内部に元々ある自己再生を促す細胞に着目した研究を進めています。再生医療はこのような自己再生能力を高める細胞の研究だけではなく、リハビリもとても重要です。これまでの中央研究施設と他学科との研究で、リハビリの仕方によって脊髄損傷の回復の仕方が変わってくることも分かっています。今後は中央研究施設の再生医療と、他学科のリハビリ分野を融合させた本学の特色を生かした研究を発展させて社会に貢献したいと考えています。

この先生に聞きました！

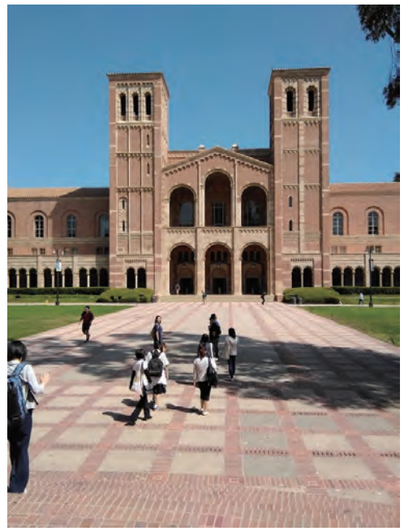
藍野大学医療保健学部 臨床工学科/中央研究施設 講師
兼清 健志 先生 Kanekiyo Kenji

富山医科薬科大学大学院薬学研究科 博士後期課程 修了（生薬学研究室にて希少な藻類の糖鎖の抗ウイルス活性について研究）。2008年より理化学研究所 疾患糖鎖研究チーム 研究員（中枢神経系だけにある糖鎖が脱髄疾患に関係していることを解明）。2013年より本学再生医療研究所（現中央研究施設）助教を経て現在講師を務める。2018年より医療保健学部 臨床工学科 講師を兼任、実験的研究を主とした卒業研究の指導や再生医療の講義に力を入れる。

◀ 神経の再生を細胞レベルで観察するため、神経細胞を培養しているシーン。細胞レベルでわかることは動物を使わずに培養細胞を用いて研究している。

藍野大学・藍野大学短期大学部

カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）で看護研修を実施



藍野大学大学院・看護学科・藍野大学短期大学部の学生が、8月16日（金）～26日（月）、10日間にわたって渡米し、「カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）」で看護研修を受けました。UCLA看護学部の講座では、上級看護職「ナース・プラクティショナー（NP）」が取り入れられてきた背景や臨床現場で果たす役割について講義を受けるとともに、多様な文化を持つ患者への理解、日本には普及していない法看護学「フォレンジック・ナーシング」についてなど、さまざまなテーマからアメリカの看護職の現状について学びました。また、素晴らしい病院として世界に名高い「ロナルド・レーガンUCLAメディカルセンター」と「ロサンゼルス小児病院」を視察。世界に先駆けるアメリカの最先端医療を目の当たりにし、知見を広げるとともに、日本の医療制度との違いについて学習しました。さらには、アメリカで活躍する4名の日本人NPにお会いして、アメリカと日本における看護職の違いや、博士課程で現在取り組んでいる研究内容について、実体験を取材。非常に内容の詰まった10日間の研修を通して、国際的な視野で保健・医療・福祉における看護の役割を学び、今後の看護師としての多様なキャリア形成について考えるきっかけを得ました。

藍野大学

語学・医療をオーストラリアで学ぶ―国際医療研修を実施

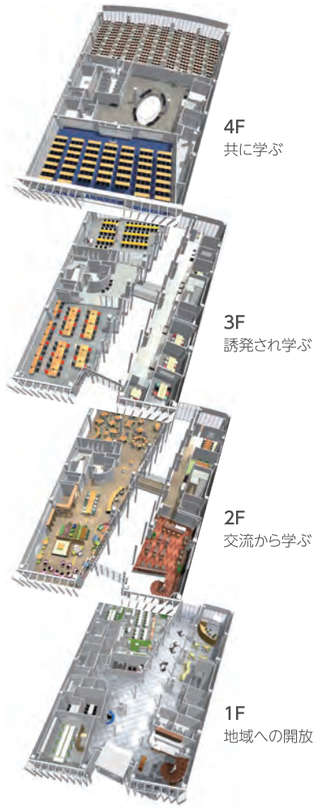
8/14(水)～9/2(月)にかけて、ゴールドコーストにあるグリフィス大学附属英語学校において国際医療研修（オーストラリア）を実施しました。例年8月に行うこの研修は、今年で4回目を迎え、今年度の履修者は7名でした。
学生は英語力のレベル別に、それぞれに適した語学研修を受講。学習の成果は、グリフィス大学の学生と交流の場で実感しました。現地の病院や、大学の施設（Nursing Lab）を見学する医療研修では、オーストラリアの医療制度や臨床現場について学び、医療従事者・患者、それぞれの立場から、日本の医療との相違点について考えました。
また研修期間中約2週間はホームステイ先に宿泊し、ホストファミリーとの生活を通して、オーストラリア文化にも触れました。参加した学生は、この研修による英語能力の向上を確認できるよう、研修の前後に学外の英語模擬試験を2回受験します。この研修を機に、医療従事者として活かせる英語力や、英語を用いたコミュニケーションスキルを高めるとともに、今後の医療について考えるグローバルな視点を養いました。

藍野大学

創基50周年記念事業 Medical Learning Commons（メディカル ラーニング コモンズ） 2020年2月竣工予定

M・L・C AINO UNIV. Medical Learning Commons

完成イメージ（鉄骨4階建て　延床面積 約3,100㎡）



2020年2月、藍野大学の正面玄関（ファサード）に新学舎「Medical Learning Commons（M・L・C=医療を学ぶ場所）」が竣工します。多様化する社会の中で、この場所には、さまざまな医療を取り巻く情報が集まり、それらの知見や知識が共有され、新しいコミュニティが形成されます。そのコミュニティは、人々が健やかな生活を送るための「ウェルビーイング（well-being）」――すなわち幸福の拠点。
本学はウェルビーイングを育むための種をM・L・Cに蒔きました。この種は、M・L・Cという鞘（さや）に包まれて医療に関する豊富な学びを成熟させ、身体的・精神的・社会的に良好な状態＝ウェルビーイング・幸福の新たな可能性を具現化していきます。
建物は4階建てで、1階はオープンカフェやフリースペースを設けた、地域の方との交流が図れるフロア。2階はグループワークをはじめさまざまな学びの形に対応するラーニング・コモンズで、3階はグループ自習室（9部屋）に個別自習室（58席）、メディアライブラリ（PC72台）を備えた学習室。4階には、最大402名を収容できる大講義室、157名まで対応する中講義室を備えます。竣工まであと少し、楽しみにお待ちください。

POINT

環境に配慮した快適空間
中央吹き抜け部は開閉式のトップライト（天窓）により自然換気システムを導入し、自然採光を確保するとともに、排熱と空気循環を促します。

災害拠点としての設備が充実
災害発生時、3階に設置しているソファは、被災者用のベッドに変更できる仕様となっています。車椅子や担架も設置する予定です。

非常時には地域に貢献
地震などの災害時に学内施設を福祉避難所や一時避難場所として開放する協定を茨木市と締結。茨木市の備蓄庫としての機能も整備します。

自然エネルギーを有効活用
屋上に40枚のソーラーパネル（全幅6.4m×8m）を設置し、同建物に電力の一部として供給。年間36,500kWhのクリーンな電力を生み出します。

主な設備
・24時間警備導入　・全館wi-fi完備　・スマートフォン予約が出来る自習室　・ATM設置(りそな銀行)
・大手コーヒーチェーン入店　etc・・・　他にもキャンパスライフ充実化に向けた様々な特徴が。

藍野大学 茨木市と共催「下肢筋力と食事改善から取り組むアンチエイジング講座」を全3回にわたり開講

理学療法学科では、6月8日（土）、7月27日（土）、9月7日（土）の全3回にわたり、「茨木市生涯学習センターきらめき」において健康増進のための講座を開催しました。当講座は茨木市の文化振興課、保健医療課、長寿介護課との共催で、「下肢筋力と食事改善から取り組むアンチエイジング」がテーマ。参加者のみなさまに講座当日はもちろん、日々の生活の中でスクワットに取り組んでいただき、カラダの若返りにチャレンジしました。講座の初回に、みなさまの筋肉量や脂肪量などの体組成、下肢筋力、血管年齢、骨密度、最終糖化産物の数値を測定。約3ヶ月間の取り組みによって、カラダがどう変化したのかを確認するために、最終日に再測定しました。結果、スクワットを続けたことで、数値が改善されて喜ぶ方もいらっしゃり、効果を実感していただける講座になりました。好評につき、11月からも同様の講座をスタートしています。

[担当教員]理学療法学科：熊田仁准教授/前田智香子准教授/梶本浩之講師/岩村真樹講師/安藤卓助教/大和洋輔助教

藍野大学 医療法人恒昭会スタッフをはじめとする医療福祉関係者対象「ケア学習会」を開催

令和元年度の「ケア学習会」を、7月30日（火）と9月3日（火）に藍野大学で開きました。藍野病院、藍野花園病院をはじめとするスタッフを対象に2016年から隔月開催している当会は、今年で4年目。7月30日（火）は、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士で神戸大学医学研究員・医学博士の前田達慶先生に「在宅での嚥下機能評価とリハビリテーション」についてご講義いただきました。また、9月3日（火）は、社会福祉法人ラヴィータ副施設長で主任介護支援専門員の中川春彦先生を講師にお迎え。認知症の高齢者がホールスタッフとして働くレストラン「てへぺろキッチン～まちがいが許されるレストラン～」についてお話しいただきました。どちらも実例をもとにしたお話がわかりやすく、現場で活きる知識の学びの場所として、また情報交換の場として活用していただいています。

[担当教員]看護学科：本多容子教授/米澤知恵講師/堀智子助教/河原史倫助教

藍野大学 中学生160人とともに福祉の課題を発見　太田中学校福祉体験授業

藍野大学では、地域貢献の一環として「茨木市立太田中学校」の2年生を対象に、福祉の体験授業を実施しています。本授業は、2013年から続いているもので、今年は10月18日（金）と25日（金）の2週にわたり藍野大学で開催。1週目は、茨木市の人口や世帯数をもとに、一人や二人暮らしで、人の手助けが必要な人が想像以上に多いことを理解してもらいました。そして、障がい者だけではなく、妊婦さんや外国人、誰もが、場合によって手助けが必要であることを学びました。講義を通して、福祉とは「みんながより健康でよりよく暮らしていけること」だと実感することができました。

1週目の講義を受けて、2週目は校外学習。実際に車いすで移動してみたり、視覚障がいを理解するためにアイマスクを装着して歩いてみたり…。中学生たちは、疑似体験によってバリアフリーやユニバーサルデザインの必要性を体感。2週にわたる福祉体験学習は、生徒にとって福祉を身近に感じ、地域の問題解決について考えるきっかけになりました。

[担当教員]作業療法学科：中西英一准教授/津田勇人教授/白井雅子講師/宮本陳敏講師/尾藤祥子講師

藍野大学 作業療法学科がNHKの取材を受けました

9月2日（月）、藍野大学にNHKの取材班が来訪されました。取材では、作業療法学科とグッドタイムリビング株式会社が共同で取り組む「クロスエイジプロジェクト」について質問を受け、作業療法学科学科長 酒井浩教授と白井雅子講師、学生たちが、それぞれ高齢者を支援するために必要な多世代交流のあり方や、当プロジェクトの目的や目標についてお話ししました。この様子は10月21日（月）NHK総合「ぐるっと関西おひるまえ」で紹介されました。

藍野大学 クロスエイジプロジェクト1周年を記念した市民公開講座を開催

昨年より作業療法学科は、高齢者住宅の運営を手掛けるグッドタイムリビング株式会社の介護ノウハウと、認知症予防に関する数多くの研究実績を有する藍野大学の専門知識を掛け合わせ、高齢者の健やかな老いを支援するための多世代交流（クロスエイジ）型プロジェクトを推進しています。その取り組みの1周年記念企画講演として、8月31日（土）に本学で、「超高齢社会を支える住まいと暮らし～歳を重ねてもその人らしく暮らすコツ～」と題した市民公開講座を開催しました。

本講座は2部構成で、第1部の「歳をとっても、その人らしく暮らせる住まいについて」では、グッドタイムリビング株式会社 代表取締役社長で、高齢者住宅経営者連絡協議会会長を務める森川悦明様が登壇。さまざまな実例を交えながら、「手厚い介助」ではなく、その人ができることを増やす「よくする介護」で、その人らしく暮らせる高齢者住宅のあり方をご講演いただきました。

また、第2部の「認知症にならないための暮らしのコツ」では、作業療法学科学科長 酒井浩教授が講演。脳の機能や構造、認知症が発症するメカニズムについて解説し、生活習慣から認知症を予防する方法や、年齢を重ねながら健やかに活き活きと暮らすためのポイントを語りました。

藍野大学 第11回市民公開講座を開催　後援：茨木市・高槻市・摂津市・島本町

9月14日(土)、藍野大学で『第11回藍野大学市民公開講座』を開催しました。地域の方々に向けて、健康増進をテーマに開催してきた当講座も、今年で11回目になりました。今回は、「認知症予防」と「男性のおしっこトラブル」の2部構成で、第1部は作業療法学科の白井雅子講師、第2部は臨床工学科の水谷陽一教授が講演。第1部の「認知症予防 ～始めよう!脳と身体を使ったエクササイズ～」では、認知症についての基礎知識を学習した後、予防のためのエクササイズを受講者全員で実践。第2部の「男性のおしっこトラブル」では、昨年の講演で解説した女性に多いおしっこトラブルに続き、今回は排尿困難や夜間頻尿といった、特に高齢男性によくみられる“おしっこトラブル”の症状について詳しくお話いただきました。誰もが将来抱えるテーマに関心をお持ちいただき、地域から100名を超える方々にご参加いただきました。

藍野大学 シャープ×藍野大学×森ノ宮医療大学連携認知予備力向上プロジェクト

作業療法学科学科長 酒井浩教授は、シャープ株式会社、森ノ宮医療大学作業療法学科 横井賀津志教授と、認知機能の低下と生活・生活関連活動との関連についての共同研究を行っています。その成果の一部が、今回、シャープが提供する「頭の健康管理サービス」のアセスメント機能に盛り込まれ、2019年7月に法人向け製品としてプレスリリースされました。今回、共同研究チームは、認知機能の低下が認められた段階での障がいを想定した際、生活・生活関連活動のそれぞれにおいて、どのような認知機能の負荷が高まるのかを検討し、そのデータをシャープ独自のアルゴリズムでアセスメント機能に反映させました。共同研究チームは、この先も、利用者の認知予備力の維持や向上に取り組み、介護老人保健サービスに関わる職員の業務負担軽減に役立つ製品開発について、さらなる研究開発を進めていく予定です。

Aino News 2019

学校法人藍野大学の最新ニュースを紹介します。

藍野大学短期大学部 茨木キャンパス

第一看護学科学科長 足利学教授が長崎県で出張講義

9月10日(火)、藍野大学短期大学部 第一看護学科学科長 足利学教授は、長崎県の伝統校 県立五島高等学校において、衛生看護科に在籍する生徒と看護系大学進学希望者を対象に、出張講義を実施しました。当日は、講義とグループワークを通して、医療従事者に必要とされる「聴く力」をどのように身に付けるかについて、心理学の観点から教示しました。受講した生徒からは「患者さまと信頼関係を構築していくときの参考になった」「うやむやにせず、すぐに質問をして解決することが大切だと感じた」などの感想がありました。

藍野大学短期大学部 茨木キャンパス

全8回の「健康長寿講座〜活き生きと死を迎えるために〜」を開講

藍野大学短期大学部は、10月2日(水)〜11月20日(水)の期間、茨木キャンパスにおいて「健康長寿講座〜活き生きと死を迎えるために〜」(全8回・無料)を開講しました。今年で4年目を迎える本講座では、医学や人体の基礎的な知識に始まり、介護の疑似体験実習、認知症の病院治療や地域での見守り方、高齢者の栄養学などについて、医師や専門家が分かりやすく解説。11月13日(水)に開講した第7回では「グリーフケア」、20日(水)の最終回では「生死と医療-関係性の死を中心に-」をテーマに講座を開き、多様な学びから「老い」や「死」の受け止め方を見つめました。およそ2ヶ月の受講期間を通じ、地域に新たな交流が生まれています。

藍野大学短期大学部 青葉丘キャンパス

認知症サポーター養成講座を開催

厚生労働省が主導する「認知症を知り地域をつくる10ヵ年」構想の一環として、2006年より全国で「認知症サポーター100万人キャラバン」という運動が開始され、2019年6月18日(火)に「認知症施策推進大綱」が取りまとめられました。これを受け、藍野大学短期大学部 第二看護学科では、8月22日(木)に青葉丘キャンパスで、富田林市協力のもと地域の方々・本学学生を対象にした「認知症サポーター養成講座」を催しました。「認知症サポーター」とは、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を見守り、支援する人のことです。この講座では、認知症とはどのような病状なのか、認知症の方への手助けの手段やどのように接したらいいのかを解説。受講した方には、認知症への理解を深め、これを支援する「目印」として、ブレスレット(オレンジリング)が配られました。

藍野大学短期大学部 青葉丘キャンパス

第3回子育て支援講座「ベビーマッサージ&タッチング」を開催

10月11日(金)、藍野大学短期大学部 第二看護学科は、青葉丘キャンパスで第3回子育て支援講座「ベビーマッサージ&タッチング」を開催しました。この講座は、ベビーマッサージを通して、保護者の方々の育児の疑問や悩みにお応えし、育児不安を軽減すること、心にゆとりを生むことを目的としています。当日は、助産師や看護師の資格を持つ教員が、赤ちゃんの身体の特徴や、リラックスできる触れ方をレクチャー。講座終了後の懇談会では、講師に子育ての質問をしたり、月齢の近い赤ちゃんの保護者同士で会話をしたりと、地域のお母様方の交流の場にもなりました。参加された方からは「同じくらいの月齢の赤ちゃんがいるママと話が出来てよかった」「経験豊富な助産師に質問できて安心した」といった声がありました。
次回は2020年1月16日(木)に開催する予定です。

私が18歳だった頃

MY SCHOOL DAYS

「声にならない声を聴く」そのために必要なのは経験で培われる感性

藍野大学短期大学部 第二看護学科学科長
河合 まゆみ 教授
Kawai Mayumi

趣味の園芸は日々の癒し。自宅の庭の様子。

「人が好き」から決めた進路 母親の反対を押し切って島外へ

私の出身地は鹿児島県の奄美大島です。家の近くには家族で育てているサトウキビ畑があり、道路を挟んで目の前は海。遊び場といえばもっぱら海や山でしたが、世話焼きだった私は保育所にお手伝いに行ったり、近所の高齢者のお家に草むしりに行ったり。田舎ならではの濃密な繋がりの中で、自然と「人が好き」という気持ちが芽生えたように思います。

そんな私が高校生になり、希望した進路は島を出て養護学校の先生になること。しかし母は地元に残って欲しいと大反対で……。1日看護師体験や養護学校のボランティアなどに参加し、その経験をもとに母を説得。残念ながら第一志望への進学は叶いませんでしたが、生活はもちろん学費も頼らないことを条件に、島外への切符を手に入れました。

現場見学で心に火がつき 勉強に励む充実した日々に 一つだけ残る後悔

正直な所、強い情熱もなく入学した看護学校。しかし入学早々、母子センターやホスピスに行く機会があり、そこでガラリと意識が変わりました。生まれたばかりで消えそうな命や、残された命と懸命に向き合う人、あらゆる命に関わる看護師という仕事はすごいと思いました。それからは勉強に仕事に一生懸命。私は時間に余裕がなかったので、とにかく1回1回の講義に集中! 移動中に本を読むなど、時間の有効活用を心がけていました。

しかし当時はバブル時代真っ只中。今振り返ると、ちょっともったいなかったかな、と思うんですよね。あまり遊んでなかった——。人の痛みに気づくには、知識だけでなく感性も大切です。メリハリさえつければ遊びも立派な経験。その後の糧になります。皆さんはぜひいろんな経験を積んでくださいね。

ある出会いをきっかけに教育の道へ 生徒の姿、みんな「愛しゃ」

患者さんが発する声にならない声。それに耳を傾け、ケアに生かすのが看護師の仕事です。私は病院時代、一人のパーキンソン病の患者さんを担当しました。重症部屋のため、近くのベッドで急変される方がいる状況の中、四肢硬直が進み、自発呼吸すら難しいその方に、自分は何ができるのだろうと思い悩みました。そして、せめて外の景色を見せてあげたいと、ベッドの向きを変えた時、その方が涙を流されたんです。その涙は、今まで気づかなかった私を責める声だったのか、「ありがとう」だったのか。もちろん答えは分かりません。しかし、あの涙こそが声にならない声でした。仕事に追われ、時間と戦う毎日でいいのか。この声を聴き取れる人をなるべく多く育てることが必要ではないのか。そう思った私は、臨床を離れ、看護教員になることを決意しました。

今は教壇に立ちながら、看護教育、中でも学習意欲について研究を進めています。日々の癒しは趣味の園芸。理想は洋風の庭ですが、実際は和洋折衷かな(笑)。一画では野菜も育て、時々は好きな花を買って自宅に飾るようにもしています。ふと漂う香りは、季節感と共に故郷の思い出も運んでくれるよう。ちなみに奄美大島には「愛しい」を意味する「愛しゃ」という方言があります。どの花も一生懸命育とうとする点が本当に愛しゃ。でも手入れの仕方はさまざまです。個を大切にしながら愛情を持って成長を支えるという点では、教育と似ているのかもしれませんね。

18歳当時、家の近くの菜の花畑にて(鹿児島県 奄美大島)

PROFILE

看護師免許取得後、病院勤務を経て佛教大学教育学部教育学科卒業。看護教員として教壇に立つかたわら、畿央大学大学院健康科学研究科健康科学専攻修士課程(看護学分野)修了。看護教育を主な研究テーマに取り組む。2016年、藍野大学短期大学部第二看護学科准教授・学科長代行(基礎看護学担当)、2018年より同学科教授・学科長。日本看護協会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会会員。

OG interview
vol.02

13’ 藍野大学看護学科卒業

フリーダイビング日本代表
看護師／寺田病院

三野夏実 さん
Mitsuno Natsumi

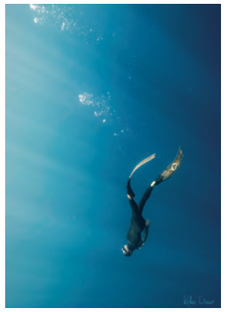
instagram@natsumi.na2mi.m

働き出してから出会ったフリーダイビング 看護師として、日本代表として過ごす今

2019 AIDA Depth World Championshipが開催されたニースにて 海洋種目の日本代表として出場

現在、東京都内の寺田病院で
病棟看護師として働く三野夏実さん。
彼女のもう一つの顔は、
フリーダイビングの日本代表選手。
元「カナヅチ」ながら練習を続け、
仕事とプライベートを見事に両立。
病院と海という異なるステージを
たくましく泳ぎ続けています。

トレーニングに訪れたタヒチのモーレア島にて



大会で自己ベストの50mを記録
photo by Kohei Ueno

在学中は辛かった勉強や実習。乗り越えたからこそ今がある。

私が看護師になったのは「人と人が繋がる、“人間”にしかできない仕事がしたい」と思ったから。救急（ER）で3年間の経験を積み、現在は消化器外科を担当しています。患者さんが日ごとに回復していく姿や、医療チームの一員であることにやりがいを感じていますが、在学中は実習や国家試験対策が好きになれませんでした。今悩んでいる人は、乗り越えた先の事を考えて取り組んでみてください。学生のとき諦めずにやり遂げて今があるなと感じていますし、保健師や教職の勉強をしていたことはさまざまな場面で役立っています。

毎日水に入ってトレーニング。仕事も練習も全力で取り組む!

フリーダイビングを始めたきっかけは1枚の海の写真。「こんな海でイルカと泳ぎたい」と、スクールに通いだしたのですが……当時の私は全くのカナヅチ。水に顔をつける練習から始め、徐々に泳げる距離が伸びる楽しさに目覚めました。今も毎日水に入っています。勤務日は前後にプールに行き、休日にはインストラクターと一緒にトレーニング。海外の大会に出場する際などは、病院の理解と協力を得て長期休暇をいただいているので、仕事も全力で取り組むことを心がけています。

競技と医療の意外な共通点。重要性を実感するチームの力。

フリーダイビングは酸素ボンベを持たずに、限界まで海に深く潜る競技です。常に意識を失う可能性があり、死とは隣り合わせ。そのため競技では、選手をサポートする方々の協力が欠かせません。看護師も常に患者さんの命と向かい合い、チーム医療を支え協力することが求められる仕事。フリーダイビングと共通点があります。真剣に競技と向き合うほど、チーム医療を支える看護師として、一層自身の経験やスキルを成長させるモチベーションが増したように感じています。

寄附金募集のご案内

寄附金によるご支援をお願いします。
学校法人藍野大学では、教育環境のさらなる充実化を目的に、寄附金の募集を行っています。
ご理解とご賛同、ならびに格別のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

寄附金 募集要項

特定公益増進法人指定寄附金

募集目的

学校法人藍野大学は、2018年に創基50周年を迎え、創基50周年記念事業として、2020年2月竣工予定で新学舎メディカル・ラーニング・コモンズ※を建設しています。その他、当法人が設置する学校の校舎の増改築および、設備充実事業等で必要な経常経費に充当することを目的に、寄附金を募集しています。

※学生支援、ラーニング・コモンズ機能、大学事務所機能などを予定

募集目標額

1億円

募集期間

2019年4月1日~2023年3月31日

お問い合わせ先

学校法人藍野大学 法人事務局 経営企画部　TEL:072-621-3764

※学校法人藍野大学が募集する寄附金の応募は任意です。また、入学前の募集は行っておりません。

募集方法

1. 申込金額　【個人】 1口3,000円
　【法人】 特に1口の金額は定めておりません
2. 募集対象　在学(校)生、卒業生、保護者、教職員、団体・法人企業及び当法人の教育にご賛同いただける方。
3. 申込方法　寄附にご賛同いただける方は、別紙の払込取扱票に必要事項をご記入のうえ、お振込みください。
4. 送金方法　■郵便局(ゆうちょ銀行)
　寄附金専用振込口座　00960-0-128865
　■別紙の払込取扱票にて払込
　または、学校法人藍野大学法人事務局へ直接持参

※寄附金の免除措置に関しては、下記「税法上の優遇措置について」をご覧ください。

税法上の優遇措置について —寄附することで、税金が控除される制度があります—

平成23年度の税制改正により既存の所得控除制度に加え、寄附者の選択により新たに税額控除制度の適用を受けられるようになりました。
この税額控除制度は、所得税率に関係なく所得税額から直接控除するため、所得控除制度と比較して、多くの方において減税効果が大きくなります。

(1)個人の場合

①所得税の寄附金控除

◎税額控除制度

(当該年中の寄附金の合計額-2,000円)×40%=寄附金控除額
※寄附金控除額が所得税額から直接控除されます。

※当該年中は1月1日から12月31日の間となります。
※寄附金の合計額が総所得金額等40%を超える場合には、40%に相当する額が限度額となります。
※控除額は所得税額の25%が限度となります。
〈例〉10,000円の寄附をした場合(10,000-2,000)×40%=3,200円
→3,200円が所得税から控除されます。

◎所得控除制度

(当該年中の寄附金の合計額-2,000円)=寄附金控除額
(課税所得-寄附金控除額)×税率=所得税額
※寄附金控除額が課税所得から直接控除されます。

②個人住民税の寄附金税額控除

学校法人藍野大学へ寄附をしていただいた方で、※①大阪府内にお住いの方、※②茨木市と富田林市にお住まいの方は、個人住民税の寄附金税額控除を受けることができます。

※①都道府県が指定した寄附金･･･4%
②都道府県と市区町村の双方が指定した寄附金…10%

(当該年中の寄附金の合計額-2,000円)×住民税控除率=寄附金控除

※寄附金の額が総所得金額等30%を超える場合には、30%に相当する額が限度額になります。
※個人住民税の寄附金税額控除は、所得税の確定申告をすることにより適用を受けることができます。

※所得税の確定申告をされずに、個人住民税の寄附金税額控除のみを受けようとされる場合には、寄附した翌年の1月1日にお住まいの市区町村へ申告することにより、適用を受けることができます。
※税制優遇の対象とならない条件もありますので、ご不明の場合は、市区町村の各担当窓口へお問い合わせください。
※今後、条例改定等があった場合は、お住まいの市区町村の各担当窓口へお問い合わせ下さい。

(2)法人の場合

受配者指定寄附により、寄附金の全額が損金算入できます。
※詳しくは上記の問い合わせ先までご連絡ください。

◎確定申告について

寄附者は、確定申告の際に「税額控除制度」または「所得控除制度」のいずれか一方を選んで優遇措置を受けることができます。「税額控除制度」を選ばれた方は、<寄附金受領書>と<税額控除に係る証明書(写)>、「所得控除制度」を選ばれた方は<寄附金受領書>と<特定公益増進法人の証明書(写)>によって確定申告の手続きを行っていただくことになります。

受領書と証明書に関しましては、交付希望の連絡をいただいた方に送付させていただいております。平成25年12月20日以降ご寄附をいただいた方で、受領書と証明書の交付希望のご連絡をして頂いた方には、<受領書>、<税額控除に係わる証明書(写)>、<特定公益増進法人の証明書(写)>をお送りいたします。

(3)その他

国・自治体等から要請があった場合には、寄附者名簿を提出させていただきますので、ご了承願います。寄附者名簿には、寄附者氏名、住所、寄附金額、寄附金受領日を記載いたします。

【発行元】〒567-0011 大阪府茨木市高田町1番22号 学校法人藍野大学 法人事務局 総務部 広報課 TEL:072-621-3764

AINO UNIVERSITY